



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2022年12月4日

№.

103

主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。
主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう。

イザヤ書 2章3節・新共同訳



礼拝献花より

御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

ローマの信徒への手紙 10章 17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『七転八起』

牧師 佐藤和宏

マタイ24章36〜44節

教会暦では新しい一年を迎えました。一年の始まりにあつて与えられた福音の日課は、イエスが「目を覚ましていなさい」と教えられている場面となっております。日課の小見出しにもなっているのですが、それは終わりの日について告げる御言葉と共に聞く、命令になります。マタイによる福音書では25章の「10人のおとめのたとえ」でも、26章にみるゲツセマネの園で、十字架の死の前にイエスが一人祈られた場面でも、弟子たちに次のように言われたのでした。「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱い」と。同じ場面をマルコによる福音書で見ると、さらに繰り返し「目を覚ましていなさい」と言われていますから、主イエスが私たちに「目を覚ましていなさい」ことを強く望まれていたことがわかります。そして、主がそのように望まれ

るということは、ゲツセマネで弟子たちがそうであったように、私たちも目を覚ましていられることが出来ないからではないでしょうか。「目を覚ましていなければならぬ」のに、「目を覚ましていたくない」のに、そのように出来ない。それは私たちの「肉体が弱い」、すなわち罪のゆえと言われているのです。しかし、私たちが眠ってしまうことが悪いのではなく、大切なことは「目を覚ましていなさい」との声に励まされて、目を覚ますということです。そうは言っても、また眠ってしまう私たちがいるでしょう。しかしまた、「目を覚ましていなさい」との声を聞いて目を覚ませばいいのです。

さて説教題にしました「七転八起」とは、「何度も転んだことを断ち切り、新たな一歩を踏み出す」という意味合いの言葉のようです。ふと「どうして、転ぶのは7回なのに、起き上がるのは同じ7回ではなく、8回なのだろうか」と疑問に思いましたので調べたところ、漢字の七は「多い」という意味合いがあり、漢字の八はいわゆる末広がり。「幸い」という意味があるのだそうです。つまり「七

転八起」とは転ぶことの多さを嘆くことではなく、そのたびに起き上がる、ここに幸いがあるという事実を目を向けているのだと思いたったのでした。この事実は、今日の福音にもそのままつながるのだと思います。すなわち今日、主イエスが「目を覚ましていなさい」と命じているのですが、絶えず目を覚ましていることが出来ず、眠ってしまう私たちがいるのです。しかしその声を聞いて再び目を覚ます。ここに希望があるとということなのです。実は「目を覚ます」という言葉は、「起き上がる」という意味を持つ「エゲイロー」の派生語なのだそうです。この言葉は「復活する」意味でも用いられる言葉です。「新しい命に生きる」ということです。当然「復活する」という場合、それは私たち人間が逆立ちしても出来ることではありません。同じように「目を覚ましていられる」ことも、私たちの努力によって出来るものではないのだとわかるのです。つまり、主イエスは「目を覚ましていなさい」と命じているのですが、私たちが目覚めさせるのは、そのように命じる主ご自身であるということです。絶えず

主に呼びかけられて、主の言葉によって初めて、眠ってしまう私たちは目覚めるのです。こうして私たちは繰り返し、御言葉を聞き、目覚めて生きますのです。これが礼拝で起る、恵みの御業にちがいありません。

目覚めていない、すなわち罪に苦しむ私たちがいるのは、その私たちが共にいて、目覚めさせ、立ち上がらせる主に会うためなのです。苦しみや悲しみのうちにも、主は確かな意味を与えておられること、このことを知ることが大切なのです。あなたの弱さや罪にさえも、主は意味を与えておられる。この御心を知ることが大切なのです。これこそ「目を覚ましていなさい」との御言葉に聞いて、目を覚まし起き上がって、新しく生き始めるということなのです。常に「目を覚ましていられる」ことができず眠ってしまう私たちですから、繰り返し繰り返し、礼拝の場に集められ、「目を覚ましていなさい」との声を聞いて、起き上がって私たちは生かされるのです。これこそキリスト教的「七転八起」。こうして私たちは、再び来られるキリストへの希望のうちに、生き始めるのです。



「宣教40年」を迎えました。

1983年11月27日、待降節第1主日に、最初の礼拝（当時の礼拝は14時）がもたれ、藤が丘教会の歩みは具体的に始められました。すでにその前月から活動は開始され、教会組織として正式に認められたのは、翌年になりますが、私たちはこの日を出発点としています。

今年の11月27日（待降節第1主日）は、ちょうど39年目にあたり、来年の待降節第1主日（12月3日）までを、「宣教40年」の一年と位置づけました。感謝の歩みを、祈りと共にいたしましょう。

最初の礼拝から遡ること一か月、10月に発行された『藤が丘だより』（田園都市線沿線開拓伝道委員会発行）に、○原○貴子さん（当時田園調布教会員）が、次のように書いています。「・・・遂に藤が丘に理想の土地を購入することができました。今春、東教区（総会）で承認されたというニュースを耳にし、その後、とんとんと話がすすみ、ウカウカとしていられなくなる程で、特に

外国から早々と、五千数百万円が届けられ胸をうたれました・・・三千万円に近い募金を開拓伝道の為に、御協力いただき、物価高の住み難い世の中で、しかも、よその教会のため、心よく承諾して下さいました事を厚く御礼申し上げます・・・」

このように、藤が丘教会設立には、地区、教区諸教会並びに海外教会のお祈りとお支えによります。これらの教会への感謝を忘れることが出来ません。しかしそれ以上に、私たちの教会が使命を果たし、この地にあつて宣教することにこそ、すべての方々への感謝を表すことになるのだと思います。そのために、地域の方々へ、奉仕する教会として、その使命を果たしてまいります。

宣教40年の一年を、主に与えられた良い機会として、私たち藤が丘教会の宣教を皆で見つめ直し、未来への希望を共にしつつ、歩みを新たにしたいと願っています。どうぞ祈りに心を合わせていただければと思います。（佐藤）

トーンチャイム

11月27日（日）9時より、第1回トーンチャイム体験会が開かれました。7月に開かれた教師会で、具体化し、その後準備を重ねて、ようやく開くことが出来ました。皆さんのお祈りに感謝いたします。

当日は3人の子どもたちと、それぞれの保護者と教師に加え、信徒の方をあわせ、大人は9人でした。○野智○子さんの指導で、楽しい時間はあつという間にすぎました。

年末年始に休みをはさみますので、18日までは連続しての開催です。年明けは1月8日から。詳細はチラシやウェブサイト等でご確認ください。いつか発表する機会を作りたいと思っております。

大人の皆さんの参加をお待ちしています。お知り合いのお子さん、お孫さんにご案内ください。

C Sは教会全体の働きです。皆さんのお祈りとご支援を必要としています。どうぞ、よろしくお祈りします。また、校長の○原さん

が倒れられ、療養中です。どうぞ、お祈りくださいますよう、お願いいたします。（佐藤）



日本福音ルーテル藤が丘教会

トーンチャイム体験会

たいけんかい

どなたでもさんかいただけます。
トーンチャイムのもちかた、ひまかたをまなび、
いっしょにえんぞうしてみましよう！

日時 12月4日（日）・18日（日）9-9:30
12月11日（日）9-9:45

場所 日本福音ルーテル藤が丘教会

持ち物 特に無し（トーンチャイムはごちから用意します。）

参加費 無料

トーンチャイムとは アルミ合金製のパイプにハンマーが付いたシンバルな日本の楽器です。ひとりひとりが音を担当して曲を作り上げていきます。

申し込み 045-973-2729 or fujigaoka@jelc.or.jp
日本福音ルーテル藤が丘教会（佐藤牧師）

女性会だより

11月27日例会 17名参加

1 聖書の学び

マタイによる福音書

20章1節～16節

2 例会

①世界祈禱日などの案内

②サバ神学院支援について

女性会としては女性会

連盟の判断に委ねる。

③物品販売について

2023年1月以降に行な

う予定

④クリスマス献金の配布先を

協議

⑤2023年1月15日女性会

総会開催

今月の受洗記念日の皆さんおめでとございます。

2日 野之兄 5日 渡功兄 高子姉 8日 仙基姉
12日 藤子姉 17日 井樹兄 18日 永子姉 19日 林
太兄 山子姉 野兄 澤子姉 20日 吉根子姉 小
み姉 嶋信兄 田英兄 21日 毛子姉 井信兄
子姉 谷一郎兄 十彰兄 山明兄 22日 谷川
瀬美姉 田萌姉 市江姉 秋子姉 秋子姉 大雪
姉 23日 田子姉 松子姉 小恵子姉 飼一兄
藤兄 子姉 伊兄 野兄 野兄 24日 村子姉
原輔兄 白子姉 佐子姉 佐洋兄 佐洋兄
野希姉 山郎兄 山子姉
山姉 山兄 25日 木子姉
村子姉 岡子姉 原子姉
原太郎兄 江子姉 本宣兄
佐実姉 上美姉 定子姉

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマの信徒への手紙 10章17節

藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jcjc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時半)

牧師室より

11月27日並びに12月4日の礼拝にて、「洗礼の信認式（アフアメージョ）」をいたしました。「アフアーム」という英語は「確認する」という訳されます。「洗礼を受けた事実を確認する式」ということです。

洗礼を受けた私たちは、時々(?) 洗礼を受けた日のことや洗礼を授けた教職(牧師)のことを、懐かしく思い出すことがあるかもしれません。確かに洗礼は一度限りの救いの出来事ですが、ルターに言わせれば、洗礼を受けたその日から、半自動的にクリスチャンであり続けるのではないようです。

定年教師の徳善義和先生はルターの『キリスト者の自由』を解説した、その著書『自由と愛に生きる』の中で、このルターの理解について、次のように書いています。「人間がキリスト者であることは、自明の、自然の成り行きではなく、人間が自ら(その行いをもって)にせよ、思考をもってにせよ)到達し、その状態を当然のこととして持続できるのではない。キリストのゆえに、キリスト

者とされるという意味で、キリスト者となるのである。」

ルターに言わせれば、クリスチャンは洗礼を受けて以降、繰り返してクリスチャンとされ続けることを必要としている、となるのです。

このように考えると、「洗礼の信認式」は、ルター派的に、理にかなった式、欠かせない式なのではないかと思えます。洗礼を確認するとは、キリスト者とされた自らを改めて確認し、新しくされる時だからです。

「洗礼の信認式」は、おおよそ堅信式に従っています。なかでも「信認」の部分では、同じ問いかけが、次のようになされています。「聖なる洗礼においてあなたがたを新たにされた主なる神の約束に堅く立ち、御言葉を聞き、聖餐にあずかり、神の忠実な民の中に生き、聖霊の賜物に従って、主のために身を献げて、分に応じて働き、言葉と行いによって、キリストにおける神の救いを宣べ伝え、主イエスに従って隣人に仕え、神の国の正義と平和の確立のために努めますか」。堅信時と同じ問いを受け、洗礼時と同じように、新たに約束するのです。(佐藤)